

LINE アカウントが停止（BAN）される行動について

－ 保護者の皆様へ －

（資料作成）NIT 情報技術推進ネットワーク株式会社

近年、LINE のアカウントが突然利用できなくなる「アカウント停止（いわゆる垢 BAN）」が増えています。これは主に、詐欺や迷惑行為を防ぐために、LINE 側の監視や制限が強化されていることが背景にあります。

一方で現在は、悪意のない使い方であっても「怪しい動き」と判断されると制限されるケースがあり、子どもたちや一般の利用者にも影響が出ています。

BAN されやすい主な行動

以下のような行動は、LINE のシステム上「スパム（迷惑行為）」と判断されやすく、アカウント停止の原因になります。

1. **同じ内容を複数人に一斉送信する**
 - 例：同じ文章を何人にも送る／宣伝や案内を一気に広げる
 - 本人は普通のもりでも、「営業・迷惑行為」と判断される可能性があります。
2. **QR コードを多くの人に配布する**
 - 例：SNS に QR コードを掲載／不特定多数に友だち追加を促す
 - 「不正勧誘」や「詐欺の入り口」と疑われやすい行動です。
3. **初対面の相手に URL（リンク）を送る**
 - 例：リンク付きのメッセージ／別サイトへ誘導する内容
 - フィッシング詐欺と同じ挙動として検知される可能性があります。
4. **グループ招待を繰り返す**
 - 例：知らない人をグループに追加する／何度も招待を送る
 - 勧誘行為と判断されることがあります。
5. **相手から通報される**
 - 例：知らない人にメッセージを送る／内容が不快・不審と感じられる
 - 通報が一定数集まると、自動的に制限されることがあります。
6. **詐欺のように見える言葉を使う**
 - 特に注意が必要な言葉：「無料」「今だけ」「限定」「副業」「簡単に稼げる」
 - これらは詐欺でよく使われるため、自動検知されやすくなっています。

重要なポイント

現在のLINEは「友だちと連絡を取るアプリ」であると同時に、不正を見つけて止めるための監視機能が強いアプリにもなっています。そのため、普通に使っているつもりでも、周りからどう見えるか（受け取る側の印象）によって「スパム行動」と判断されることがあります。

- 短時間に同じ動きを繰り返す（連続送信・連続招待など）ほど、機械判定に引っかかりやすくなります。
 - 「知らない人から見たら怪しいかも」という視点で、送信前に一呼吸おくことが効果的です。
-

よくある例（Q&A）

- 部活やクラスの連絡を一斉に送りたい：同じ文面の連続送信は避け、グループ機能を使う／時間を空けて送るなど工夫してください。
 - SNSに友だち追加用のQRコードを載せたい：不特定多数への公開はリスクが高いため、必要な相手に限定して共有してください。
 - 初めて話す相手にURLを送りたい：相手が安心できる説明（目的・内容）を添えて、急がせる表現を避けましょう。
-

アカウント停止になるとどうなるか

- ログインできなくなる
 - トーク履歴が消える可能性がある
 - 復旧できない場合もある
-

一度停止されると、完全に元に戻らないケースもあります。

ご家庭で意識していただきたいこと

- 知らない人にメッセージを送らない
 - URLやQRコードを安易に使わない（貼らない・配らない）
 - 同じ内容を一気に広げる行動をしない
 - 送る前に「これ、相手から見て怪しくないか？」を考える習慣をつける
-

LINEは「アカウント＝信用」です。普段どおりのつもりでも、相手の受け取り方や送信の仕方によっては「スパム」と判定されることがあります。ご家庭でも、①知らない人に送らない ②URL・QRコードを安易に使わない ③一斉送信をしない、の3点を合言葉に安全に利用しましょう。

万一、利用制限が表示された場合は、むやみに操作を繰り返さず、LINEアプリ内の案内（ヘルプ）を確認し、必要に応じて保護者の方と一緒に対応してください。